

宗教と政治

平成23年11月14日

中野翔太

目次

1. はじめに
2. 新宗教とは
3. 新宗教と政治
4. おわりに

1.はじめに

新宗教は、寺院仏教、神社神道等の既成宗教とは対蹠的な性格をもつ運動体としての宗教である。日本の人口のうち約1割が新宗教に帰依していると言われるが、なぜ大衆が新宗教に帰依したのか、教団が発展したかを理解することで、大衆と宗教、政治と宗教を考えるために役立つといえる。その中でも今回は公称信者827万世帯の新宗教でも群を抜く信者数の創価学会を軸に見ていきたいと思う。

2.新宗教とは

○新宗教と新興宗教

新宗教は近代化に対応する形で出現した宗教である。今回の勉強会ではネガティブなイメージを含む新興宗教と学術的な新宗教を分けて考えたい。

○近代化を伴う社会の変化

新宗教は「新」と冠しているものの日本の伝統的な神道、仏教を起源にしている。

3.新宗教と政治

○宗教の社会性、政治性

○近代国民国家と政教関係

・イタリア

・フランス

・ドイツ

・アメリカ

・日本

○新宗教と政治活動

1961年、創価学会は政治団体公明政治連盟を結成し、1964年11月には公明党を結党した。日本国では憲法第20条1項後段(信教の自由は、何人に対してもこれを保障する。いかなる宗教団体も、国から特権を受け、又は政治上の権力を行使してはならない。)、

3項（国及びその機関は、宗教教育その他いかなる宗教的活動もしてはならない。）、89条（公金及びその他公の財産は、宗教上の組織若しくは団体の使用、便宜若しくは維持のため使用してはならない。）により政教分離を規定している。創価学会は設立当初日蓮が唱えた国立戒壇論を主張していたが政教分離に反するとして批判され、1970年に創価学会と公明党は分離した。

4.おわりに

政治と宗教は太古の時代から密接に関係してきた。現代では宗教も形を変え、政治制度も民主主義の近代国民国家へと変容した。世界に目を向けると、イスラム、キリスト各教問わず原理主義が台頭している。21世紀における政治と宗教の関係について残りの時間議論していきたいと思う。

<参考文献>

井上順孝『人はなぜ「新宗教」に魅かれるのか?』三笠書房

竹下節子『カルトか宗教か』文春新書 1999年

島田裕巳 矢野絢也『創価学会もうひとつのニッポン』講談社 2010年

中野実 『シリーズ 21世紀の政治学①宗教と政治』新評社 1998年

村上重良『新宗教 その行動と思想』岩波現代文庫 2007年

山田直樹『創価学会とは何か』新潮社 2004年

柳父圀近『政治と宗教』創文社 2010年

<参考 URL>

創価学会公式サイト <http://www.sokanet.jp/index.html>（最終閲覧日 2011年 11月 13日）